

展示物紹介

天然記念物 城山の自然

3階3D劇場では、本館の背後にある城山について、成り立ちや地層、動植物などをパネルや標本で紹介しています。

城山は、市街地の近くにありながら、昔の自然が残っている貴重な場所であるため、国の史跡・天然記念物に指定されています。

散策コースや桜島を展望する場所としても馴染みのある城山。城山に登る前に、ぜひ博物館で城山の成り立ちや「シロヤマ」の名のつく植物など確認してみたいはいかがでしょうか。



本館3階・3D劇場内の展示

●●● 催し物紹介 ●●●

博物館では毎週土・日曜日に楽しい実験を、そして毎月第2・4日曜日には天文教室を行っています。

月	楽しい実験	天文教室
10	スズメバチをさわろう	お日さまが教えてくれる時計
11	ジュズダマでかざりをつくろう	ゆらゆらゆれる惑星モビール
12	貝がらや石ころでアート	とべとべ たこ
1	星砂をさがそう	光る誕生星座かざり
2	回してあそぼう キャップゴマ	惑星の素顔をさぐる立体模型
3	よく飛ぶプラトンポ	パッと開く宇宙折り紙

●鹿博だより 編集・発行 鹿児島県立博物館 〒892-0853 鹿児島市城山町1番1号 TEL099-223-6050 FAX099-223-6080

学芸室の窓から

博物館はやっぱりおもしろい!

鹿児島県立博物館は、自然史の博物館で主に展示活動、資料収集、調査研究や教育普及活動など各分野担当の学芸主事を中心に全員体制で業務を行っています。

私は、地質(岩石・鉱物・化石)を担当していますが、博物館に勤務しているとしばしば担当以外の珍しい場面に遭遇することがあります。

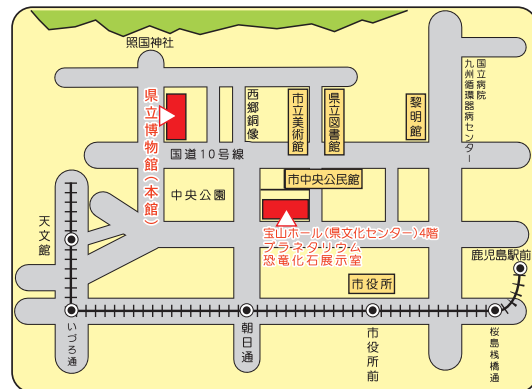
博物館の1階奥の一角に両生類の水槽があり、カエルやイモリを飼っています。先日、その水槽の中で、思わず笑顔になってしまう場面に出くわしました。

下の画像がそのときのものですが…、これを見たあなたも思わずニッコリとしてしまったことでしょうか。二匹とも作りもの?ではなく、正真正銘の本物、現役です。(決してやらせではありません!)「カエルの子はカエル」ということわざもありますが、これを昔の人が見ていたら、どんなことわざができたのでしょうか。

博物館にくと、まだまだ他にも面白い、ちょっと元気になるものが見つかるかもしれません。そう、やっぱり博物館はおもしろいところなのです。今回、話題の二匹をはじめ職員一同みなさんのご来館をお待ちしています。



「コラボレーション」
仲よしの二人?...もとい二匹です。



ホームページ <http://www.pref.kagoshima.jp/hakubutsukan/>



ヒラズゲンセイ 2011年7月7日撮影(南大隅町根占川北)

左: 巣から頭を出すクマバチ(メス)と、様子をうかがう ヒラズゲンセイ(オス) 右上: クマバチが巣に入る際に、ヒラズゲンセイにわざとぶつかり、けん制した。 右下: 巣穴の近くでフェロモンを放出していると思われるオス

2011年は新聞に取り上げられたおかげで、ヒラズゲンセイの情報が8月16日現在15件博物館に集まりました。あまり目にすることのない昆虫ですが、かなり人家周辺にいることも分かってきました。

人との繋がりを作る博物館講座

主任学芸主事 中間 弘

当館では教職員を対象に、自然の中で観察や実習を行う体験型の講座を行っています。参加者は自ら採った植物や昆虫を用いて標本作りを体験することとおして、動植物の特徴や居場所について知ることできます。また、実体験に裏打ちされた具体的できめ細かな指導も会得することができます。

この講座では、自然への理解と指導力の向上が目的ですが、研修する中で参加者どうしのコミュニケーションが生まれ最終的にはネットワークにまで発展します。県内各地の方々との繋がりができることで、自然の情報はもちろん、教科指導などに関する情報も共有できます。多くの情報をやりとりすることで地域の自然を生かした教材づくりができ、より魅力的な情

報を子どもたちに伝えられると思います。子どもたちが楽しそうにしかも興味深く話を聞いてくれば、伝える側の意欲もまた高まります。また、野外活動では危険な動物との遭遇や事故などが予想されます。書物で得た知識だけではなく、経験の中で身に付けた危険を回避する力は生きる力の一つとして大切なものですし、指導者としても必要なものとなります。体験に基づいた言葉は子どもたちを十分に納得させることができます。

結果として、子どもたちの自然科学への興味・関心が高まり、ひいては理科離れに歯止めがかかればうれしい限りです。当館の講座や普段の活動が、子どもたちの学習活動にとって何らかのお役に立てればと思っております。